

## 光学医療診療部

### ■ スタッフ

部長		堀木紀行
副部長		田中匡介
医師数	常勤	7名
	併任	5名
	非常勤	1名
内視鏡技師(看護師)		
	常勤	3名
	非常勤	4名
M E		3名
看護師	非常勤	3名
事務職	非常勤	1名
その他	洗浄員	2名

### ■ 光学医療診療部の特色

- ① 内視鏡3室と透視2室は十分なスペースを確保しており、さまざまな検査や治療にも対応できる構造となっている。
- ② 透視室のうち1室は陰圧室となっており、気管支鏡検査に対応できる空調装置を設けている。
- ③ 透視装置には防護カバーを装着して検査を行っており、スタッフの被爆を最小限に抑えるような配慮がされている。
- ④ 透視室を含む全トロリーに超音波内視鏡装置が設備されており、いつでも超音波内視鏡検査が可能である。また、大学病院として EUS-FNA 症例が多いため ALOKA SSD-α10 を備えた。
- ⑤ ダブルバルーン内視鏡の使用頻度が高く、2セット用意することで透視2室同時に検査や治療(例：胃全摘後の総胆管結石除去など)を行うことが可能である。
- ⑥ 洗浄室は換気装置が設けられた独立した設計になっており、スコープの洗浄が行いやすいように特注のシンク台を設置、専任の洗浄員を配置している。

### ■ 診療体制と実績

#### 1. 業務体制

当診療部は、日本消化器内視鏡学会および日本気管支学会の指導施設であり、最先端の内視鏡診療と教育を行っている。消化器肝臓内科、消化管および肝胆膵外科、呼吸器内科、耳鼻咽喉・頭頸部外科、

総合診療部、救急部、放射線科の医師と協力して、消化器疾患、呼吸器疾患、咽頭・頸部疾患領域の内視鏡検査・内視鏡治療を行っている。当部門の内視鏡画像データはデジタルファイリングされ、大学のネットワークを介して、外来・病棟等で参照が可能であり、診療・教育等に利用されている。

消化器領域では、拡大内視鏡や超音波内視鏡を用いて、詳細な病変の観察、診断が可能である。早期胃癌や早期大腸癌に対する内視鏡的粘膜切除術、同粘膜下切開剥離術、消化管出血・消化管狭窄の治療、食道静脈瘤硬化療法・血紮術、内視鏡下胃瘻造設術、胆管・膵管内結石の治療、狭窄胆管・膵管の拡張術等を行っており、非侵襲的に良好な治療成績を上げている。また、胃・十二指腸疾患の原因菌とされているヘリコバクター・ピロリ感染の診断と治療についても豊富な経験を有している。呼吸器領域では、気管支鏡を用いて、肺癌等の胸部腫瘍性疾患の診断と内視鏡的治療、喀痰採取による気管支鏡下細胞診等を行っている。

研修医は臨床研修制度によりローテーションしてくるため、個々の研修に適した内視鏡指導を行っている。消化器内科や内視鏡医をめざしている医師に対しては、本人の力量、やる気、興味により習得速度が異なるため、段階的な到達目標を定め、内視鏡がなるべく触れられる様に工夫をしている。

当科では医局に属することなく研修を受けること、消化器内視鏡および消化器病学会などの専門医資格を習得することが可能である。

#### 2. 診療実績

実績 (2016年1月～2016年12月)

		期間合計
上部	検査	2,945
	治療(計)	305
	ESD	113
	EMR	7
下部	検査	1,265
	治療(計)	257
	ESD	33
	EMR	201
胆膵	EUS/FNA	364
	ERCP	320
DBE		82
カプセル		151
BF		213
Ope		165
EIS・EVL		51

## ■ 今後の展望

当科内で内視鏡技師資格を持つスタッフを育成することにより、内視鏡エキスパートスタッフを増員することが可能となり、内視鏡業務に専念できる環境を作りあげることが可能となった。

内視鏡診断および治療の進歩はめざましく、up dateして行くことが重要である。現在、上部および下部超拡大内視鏡といった機種も購入予定であり、今後は今まで以上に若手内視鏡医や看護師、MEの育成や研究に力を入れてゆく予定である。

---

▶ <http://www.medic.mie-u.ac.jp/gastro/koshin/koshin.html>